

平成 15 年度第 1 回理事会議事録

[第 2 部]

日時 平成 15 年 4 月 15 日 (火) 7:00 ~ 8:30

会場 ホテルオークラ福岡「平安の間」

出席者

会 長：中野 仁雄

副会長：野澤 志朗、藤井 信吾、

理 事：麻生 武志、石塚 文平、石丸 忠之、稲葉 憲之、植木 實、大濱 紘三、
落合 和徳、嘉村 敏治、木下 勝之、工藤 隆一、佐藤 章、鈴森 薫、
武谷 雄二、田中 憲一、野口 昌良、星 和彦、本庄 英雄、村田 雄二、
和気 徳夫

監 事：荒木 勤、藤本征一郎

名誉会員：坂元 正一、Yoon-Seok Chang

幹事長：吉田 幸洋

幹 事：植田 政嗣、刈谷 方俊、小林 浩、古山 将康、澤 倫太郎、
清水 幸子、杉浦 真弓、高桑 好一、早川 智、阪埜 浩司、
平川 俊夫、平田 修司、藤森 敬也、村上 節、矢野 哲、

総会幹事：青木 大輔、久慈 直昭、久布白兼行、末岡 浩、塚崎 克己

議 長：清川 尚

副議長：足高 善彦、松岡幸一郎

弁護士：平岩 敬一

事務局：荒木 信一

・協議事項

13. 理事の業務分担、幹事の業務分担

野澤会長から資料に基づき理事の業務分担、幹事の業務分担が示され、これを承認した。

理事、幹事業務分担

(分担業務)	(常務理事)	(理 事)	(幹 事)
庶 務	落合 和徳	石塚 文平、 岡村 州博、 佐藤 章	小田 瑞恵、 澤 倫太郎、 藤森 敬也、 村上 節
会 計	岡村 州博	落合 和徳、 和気 徳夫	刈谷 方俊、 高桑 好一
学 術	和気 徳夫	麻生 武志、 大濱 紘三、 工藤 隆一、	早川 智、 矢野 哲
編 集	星 和彦	伊藤 昌春、 武谷 雄二、	植田 政嗣、 古山 将康、 平田 修司、 古山 将康、
渉 外	村田 雄二	嘉村 敏治	小林 浩 杉浦 真弓 藤森 敬也 小田 瑞恵

社 保	植木 實	石丸 忠之、 野口 昌良、	稲葉 憲之 本庄 英雄	植田 政嗣、	清水 幸子
専門医制度	武谷 雄二	麻生 武志、 伊藤 昌春、	石塚 文平 木下 勝之	小林 浩、 平田 修司、	清水 幸子 矢野 哲
倫 理	田中 憲一	星 和彦、 大濱 紘三、	村田 雄二 佐藤 章	澤 倫太郎、	杉浦 真弓
広 報	佐藤 章	鈴森 薫、 植木 實 野口 昌良	武谷 雄二 鈴森 薫	高桑 好一、 刈谷 方俊、 古山 将康、 高桑 好一、 平川 俊夫、 村上 節、	阪埜 浩司 小林 浩 清水 幸子 阪埜 浩司 藤森 敬也 矢野 哲
学会の あり方検討	藤井 信吾	麻生 武志、 武谷 雄二、 和気 徳夫	落合 和徳 村田 雄二	小田 瑞恵、 澤 倫太郎、 平川 俊夫	刈谷 方俊 阪埜 浩司

14. 日産婦・医会ワーキンググループ本会メンバー

野澤会長から日産婦・医会ワーキンググループ本会メンバーは以下の5名とし、議題により必要があれば随時増員することとしたいとの提案がなされ、これを承認した。

日産婦・医会ワーキンググループ本会メンバー

(庶務) 落合和徳理事、(編集) 星 和彦理事、(専門医制度) 武谷雄二理事、吉田幸洋幹事長、澤 倫太郎幹事

15. 企画委員会委員

野澤会長から企画委員会委員として以下の委員が提案され、これを承認した。

1) 運営企画委員会

委員長：落合和徳(庶務担当常務理事)

委員：

庶務担当理事：石塚文平、石丸忠之、嘉村敏治、佐藤 章

会計担当常務理事：岡村州博

ブロック別委員：

(北海道) 石川睦男、(東北) 田中俊誠、(関東) 岡井 崇、久保春海、
(北陸) 井上正樹、(東海) 宇田川康博、(近畿) 星合 昊、森川 肇、
(中国) 平松祐司、(四国) 秦 利之、(九州) 瓦林達比古

会長推薦：新家 薫、田中政信、宮崎亮一郎

苛原 稔、岩下光利、倉智博久

幹事：澤 倫太郎、吉田幸洋

(以上25名)

担当幹事：小田瑞恵、刈谷方俊、阪埜浩司、藤森敬也、村上 節

2) 学術企画委員会

委員長：和気徳夫（学術担当常務理事）

委員：

麻生武志、稲葉憲之、岩坂 剛、大濱紘三、柏村正道、金澤浩二、金山尚裕、木下勝之、
工藤隆一、蔵本博行、斎藤 滋、佐川典正、杉野法広、関谷宗英、豊田長康、野田洋一、
早川 智、平川俊夫、深谷孝夫、本庄英雄、牧野恒久、牧野田知、丸尾 猛、峯岸 敬、
矢野 哲
(以上 26 名)

中央専門医制度委員会委員長、副委員長および委員

委員長：武谷雄二

副委員長：川端正清、丸尾 猛

研修小委員長：平原史樹

委員：

秋山敏夫、麻生武志、池ノ上克、石塚文平、伊藤昌春、宇田川康博、大村峯夫、亀井 清、
木下勝之、小林 浩、斎藤 裕、櫻木範明、佐川典正、清水幸子、白須和裕、竹村秀雄、
田中政信、栃木明人、西井 修、西野英男、平田修司、星 和彦、宮崎亮一郎、村田雄二、
矢野 哲、吉川裕之、吉田幸洋
(以上 31 名)

倫理委員会について

田中副会長から倫理委員会委員は人選中との説明があった。

16. 専門委員会について

野澤会長から資料に基づき生殖・内分泌、婦人科腫瘍、周産期、教育・用語、の 4 委員会の委員長、副委員長、委員、小委員会委員長、委員が提案され、これを承認した。

社会保険学術委員会については植木理事より委員会委員は人選中との説明がなされた。

社団法人日本産科婦人科学会専門委員会委員氏名（平成 15 年度～16 年度）

生殖・内分泌委員会 委員長 深谷孝夫

副委員長 水沼英樹

石原 理、岩下光利、太田博明、倉智博久、斎藤 滋、寺川直樹、野口昌良、吉村泰典

ヒト生殖のロス（習慣流産等）に対する臨床実態の調査小委員会 委員長 斎藤 滋

石原 理、久保春海、杉 俊隆、杉浦真弓、竹下俊行、田中忠夫、牧野恒久、山本樹生、
吉村泰典

閉経後女性の QOL 向上を踏まえた個別指導のあり方検討小委員会 委員長 太田博明

麻生武志、大濱紘三、岡野浩哉、倉智博久、小嶋康夫、野口昌良、樋口 毅、本庄英雄、
若槻明彦

本邦における妊孕温存・回復を目的とした新しい手術手技の実態調査と

その効果検討小委員会 委員長 水沼英樹

井坂恵一、岩下光利、小畑孝四郎、堤 治、寺川直樹、深谷孝夫、藤下 晃、村上 節、
山田清彦

婦人科腫瘍委員会 委員長 金澤浩二

副委員長 稲葉憲之

岩坂 剛、宇田川康博、梅咲直彦、嘉村敏治、河野一郎、玉舎輝彦、安田 允、吉川裕之

登録業務と登録業務一元化に関する小委員会 委員長 稲葉憲之

岩坂 剛、宇田川康博、葛谷和夫、蓮尾泰之、深澤一郎、前濱俊之、松井英雄、安田 允

STDと性器癌に関する検討小委員会 委員長 河野一郎

梅咲直彦、嘉村敏治、笹川寿之、玉舎輝彦、藤原恵一、藪下廣光、横山正俊、吉川裕之

周産期委員会 委員長 池ノ上克

副委員長 岡村州博

石川睦男、伊藤昌春、岡井 崇、金山尚裕、豊田長康、中林正雄、名取道也、平原史樹

胎児心拍数図の解説に関するガイドライン検討小委員会 委員長 岡井州博

池田智明、泉 章夫、茨 聡、岡井 崇、金山尚裕、神崎 徹、上妻志郎、菅原準一、
藤森敬也

新周産期登録システムの登録と解析に関する問題検討小委員会 委員長 中林正雄
伊藤昌春、久保隆彦、佐藤昌司、住本和博、千葉喜英、豊田長康、中村 靖、正岡直樹、
宮下 進

臨床遺伝情報の有効活用に関する検討小委員会 委員長 名取道也

石川睦男、川齋市郎、左合治彦、種村光代、平原史樹、福島明宗、増崎英明、松田義雄、
三春範夫

教育・用語委員会 委員長 吉川裕之

副委員長 岩下光利

瓦林達比古、葛谷和夫、蔵本博行、竹田 省、豊田長康、深谷孝夫、峯岸 敬、八重樫伸生

17. 理事会内委員会委員について

野澤会長から資料に基づき理事会内委員会の委員長、副委員長、委員、小委員会委員長、委員が提案され、これを承認した。

定款改定委員会

委員長 落合和徳

委員 石塚文平、澤 倫太郎、田中政信、阪埜浩司、宮崎亮一郎、吉田幸洋

幹事 小田瑞恵

学会のあり方検討委員会

委員長 藤井信吾

副委員長 岩下光利

委員 麻生武志、岡井 崇、落合和徳、清川 尚、澤 倫太郎、武谷雄二、竹村秀雄、
樋口正俊、平川俊夫、松岡幸一郎、宮崎亮一郎、村田雄二、吉田幸洋、
吉村泰典、和気徳夫 (以上17名)

幹事 小田瑞恵、刈谷方俊、阪埜浩司

広報委員会

委員長 佐藤 章

副委員長 鈴森 薫

委員 植木 實、刈谷方俊、小林 浩、古山将康、清水幸子、高桑好一、野口昌良、
阪埜浩司、平川俊夫、藤森敬也、村上 節、矢野 哲、吉田幸洋（以上 15 名）

2007AOFOG 実行委員会

委員長 武谷雄二

副委員長 村田雄二

委員 赤松達也、岡井 崇、岡村州博、落合和徳、久慈直昭、古山将康、阪埜浩司、
平川俊夫、村上 節、吉田幸洋、和気徳夫（以上 13 名）

18. その他

1) 平成 15 年度諸会議日程

野澤会長から資料に基づき今後の諸会議の日程が示された。

2) その他

(1) 落合理事から鑑定人推薦委員会の委員長に石丸理事を推薦したいとの提案がなされ、これを承認した。

(2) 野澤会長からマスコミへの対応は広報委員会で行うことが提案され、これを承認した。本日 9 時 30 分から 10 時 30 分までマスコミへの記者会見を行う予定であり、出席予定者は野澤会長、藤井副会長、田中副会長、落合理事、佐藤理事、米本倫理委員会委員長、幹事数名であることが説明された。

(3) 本庄理事から「日本産科婦人科学会として、日本の少産少子に対する対応としての産婦人科医の役割の重大性をもっと国へアピールしていくべきである」との意見が出された。それに対して、藤井副会長から「それについては、これまでも学会のあり方委員会で検討してきたが、今年はそれを実行していくことのできる形で案をきちんと作成して動いていきたい」との説明がなされた。

(4) 麻生理事から「これまで各専門医委員会間の横のつながりがないために、各専門委員会での問題点が共有できないという問題があった。これを改善するためには合同専門委員会を年に 1 ～ 2 回開催し、各専門委員会での問題を提示することが必要なのではないか」との意見が出され、落合理事から「年 4 回の理事会に各専門委員会委員長が陪席してその折に各専門委員会の問題点を提示したらいかがなものか」との提案がなされた。野澤会長から「その方向性でよろしいか。近い将来、前向きに方法を造って行きたい」と提案され、これを承認した。

(5) 村田理事から「昨日行われた全国分娩管理委員会で、卒後研修の産婦人科必修化にも伴って、分娩の質を確保しながらいかに人員を増やしていくかの説明を全国の大学の病院長あてに提出したいが、この機関は独立行政機関のため日本産科婦人科学会でその提案を承認して全国大学病院委員長あてに出したい」との提案があり、武谷理事より「次回の常務理事会に素案を提出していただいてから検討したらいかがか」、和気理事から「大学病院以外の研修機関へはどうするのか」との意見が出された。村田理事より「次回の常務理事会に案を文章にて具体的に提出し提案するので、検討していただきたい」との提案があり、了承された。

・平成 15 年度事業方針および計画

野澤会長から資料に基づいて平成 15 年度事業方針および計画が示され、承認された。

以上